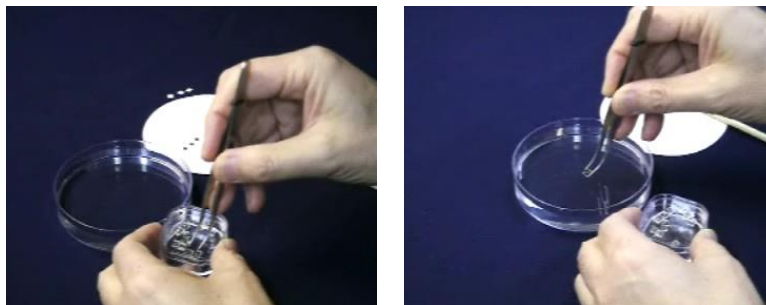


スーパー支持膜作製法

1. **清浄なシャーレ**に蒸留水を8分目まで入れます。



2. ピンセットで岩塩をつかみ、**ゆっくり**蒸留水に沈めると膜が岩塩からはがれ、水面に浮かびます。



- ※ 膜は、フタを上にしたときに岩塩の上面に形成されています。
- ※ メンブレンボックスには、フタ側がわかるように説明があります。
- ※ メンブレンボックスを開けたときに岩塩がフタ側にくっつかないように、膜側に薬包紙を挟んであります。
- ※ 一度メンブレンボックスから岩塩を取り出しますと、膜面の判別が困難になりますのでご注意ください。

3. 膜が浮かんたら、膜に触れないよう注意しながら岩塩をシャーレから取り除きます。

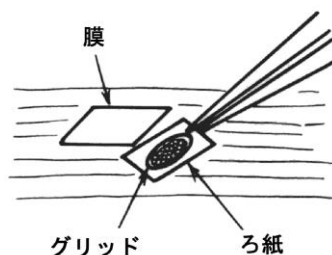
4. 使用するグリッドを、付属の4mm角のろ紙に載せます。

(ろ紙は、余分な膜がグリッドにまわり付かないようにするために使用します)

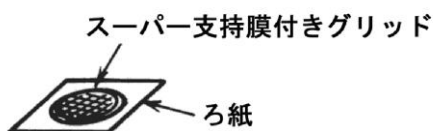


5. **グリッドの端とろ紙を一緒に**ピンセットでつかみます。

6. 水面に浮いている膜をまつ毛プローブで寄せながら、ろ紙に載せたグリッドで静かにすくいあげます。



7. **グリッドを載せたろ紙が乾いたら (室温で1～2分)**、ろ紙からグリッドを離し、お使いください。
(グリッドはピンセットでつかむとすぐ持ち上がります。)



※以上の作業は、弊社のホームページ上にて動画で公開しております。

<http://nisshin-em.co.jp/information/ssf.html>

注意事項

1. メンブレンボックスに収納した状態でデシケーターに保管し、**ご購入後1年以内**にお使いください。
2. 岩塩を蒸留水に入れる際、早く入れすぎて膜面がはがれずに水中に沈んでしまいますと、その膜は使用できませんのでご注意ください。
3. グリッドに貼ったスーパー支持膜は、なるべく**その日の内**にご使用ください。時間の経過とともに膜のハリがなくなります。
※ 電顕観察後、デシケーター内で保存した超薄切片やネガティブ染色の試料は再度観察することは可能です。
4. コンタミの原因となりますので、付属の4mm角のろ紙には**素手では触れないでください**。
5. まつ毛プローブには、プローブが2本ついていると、膜を寄せやすくなります。
6. ネガティブ染色に用いるときは、膜をグリッドに貼った後、イオンスパッタ装置で親水化処理してからお使いください。
7. 超薄切片の支持膜として使うときは、まず切片をグリッドに載せ、電子染色をした後に、スーパー支持膜で切片をカバーする方法が有効です。(染色性を向上させ、高倍率観察を可能にします)
8. グリッドは、200～400メッシュをおすすめします。
9. グリッドは、0.5%ネオプレン W 溶液などで粘着処理をしてからお使いいただくと、ドリフトがより一層軽減されます。